

【参考：結核に関する解説】

1 結核とは

結核菌によって主に肺に炎症を起こす病気です。結核と診断した医師は、直ちに保健所長へ届け出なければならない疾病（二類感染症）です。

2 肺結核の症状

肺結核の初期は、風邪と似ています。咳、痰、発熱（微熱）の症状が、2週間以上続き、さらにひどくなると、全身倦怠感、血痰、喀血、呼吸困難などの症状が出ます。

3 感染経路

結核菌を排出している患者が、咳やくしゃみをした時、飛散する結核菌を含んだ飛沫を吸い込むことで感染します。

ただし、結核菌を吸い込んでも、多くの場合、体の抵抗力によって体の中に菌が残りません。

4 潜伏期間等

結核菌は、感染しても増殖速度が遅く、IGRA 検査（血液検査）で感染を確認できるようになるまでには、2～3 か月程度かかります。

感染者の 10～20%が発病し、感染後 2 年以内に発病することが多いとされています。

5 治療法

発病し、排菌している場合は、入院になります。入院期間は、平均して 2～3 ヶ月程度です。

排菌していない場合は、通院・服薬治療になります。服薬期間は、基本的には 6 ヶ月間です。

（注）

発病者：結核の症状を呈し、画像検査等により結核の所見が認められた者。ただし、排菌していなければ、他人に感染させることはない。

感染者：無症状で、ツベルクリン反応検査や IGRA 等検査で陽性となった者。体内に結核菌を保有するが、他人に感染させることはない。

6 喀痰塗抹陽性肺結核とは

喀痰塗抹検査で結核菌が陽性（発病し、排菌している場合）であり、**他人に感染させるおそれがある状態**。

（注）

喀痰塗抹検査：喀痰を直接、載せガラスに白金耳などで塗りつけ、乾燥、熱固定して、抗酸性染色（チール・ネールゼン染色や蛍光染色）を施し、顕微鏡下で抗酸菌の存在を探す方法。

【参考：非結核性抗酸菌症（NTM 症）に関する解説】

1 非結核性抗酸菌症（NTM 症）とは

環境中に広く存在する非結核性抗酸菌によって発生する感染症で、肺への感染が最も多く、次いで皮膚への感染の順となっております。日本では NTM 症の患者数が増加傾向にあり高齢者に多くみられます。

2 主な症状

主に肺の内部で病変をつくり、長引く咳、痰、発熱、呼吸困難といった症状が代表的ですが、初期には無症状で経過が緩やかな場合や、憎悪と軽快を繰り返す場合もあり、進行速度や症状の出方は患者ごとに異なります。

3 感染経路

NTM は土壌や水系などの自然環境や、浴室のシャワーヘッド、水道の蛇口等に生息しており、NTM を含むエアロゾルの吸入等により、肺内に取り込まれます。

一方で、NTM を吸入しても発症に至らない例があるため、発症は宿主の免疫や体質に依存すると考えられています。一般的に NTM はヒトからヒトへは伝播しません。

4 治療法

病状等によって経過観察することもあります。治療する場合には複数の抗菌薬を使用します。慢性化や再燃することもあるため、いずれにせよ慎重な経過観察が必要です。